

# 図書館だより 第10号

2023.3.13 狛江高校図書館

新しい本が入ります！ ※別紙一覧表をご覧ください。 ※3月下旬入荷予定



図書館 ～展示スペースのいま～



いよいよ春の訪れです。桜の開花が待ち遠しくなりました。3年生とはお別れですが、**新天地での活躍を願っております。お元気で！！**

3月分の新着図書を展示しますので、1・2年生は、春休みに是非読んでください。3月22日(水)から冊数無制限貸出が始まります。

3月～4月のカレンダー (変更される場合があります)      グレーは休館

日	月	火	水	木	金	土
3/12	13	14 卒業式	15	16	17	18
19	20	21 (春分の日)	22 無制限貸出(始)	23 新入生説明会	24 修了式	25
26 春季休業日(始)	27	28	29	30	31	4/1
2	3	4	5 春季休業日(終)	6 始業式	7 入学式	8

## 《文学賞受賞作の中から》 ※3月下旬入荷予定

谷崎潤一郎賞



『ミトンとふびん』  
吉本 ばなな  
(新潮社)

「愛は戦いじゃないよ。愛は奪うものでもない。そこにあるものだよ。」癒えることない喪失、めぐりゆく出会いをあたたく照らす短篇集。

今日もこうしてまわりつづける地球の上でめぐりゆく出会いと、ちいさな光に照らされた人生のよろこびを描いた短篇集。

アガサ・クリスティー賞



『そして、よみがえる世界。』  
西式 豊  
(早川書房)

脊損の脳神経外科医の牧野は、医療テック企業役員の元指導医に依頼され、視覚を失った少女エリカへの視覚再建装置(パーチャライト)埋設を代理執刀する。脳内インプラント(テレパス)を用いたオペは成功したもの、彼女は黒い幻影に脅かされるようになる。仮想と現実のはざままで少女を翻弄する幻影の、その驚愕の正体とは。

## 《リクエストされた図書の中から》



『変な絵 -あなたには、この絵の「謎」が、解けますか?』  
雨 穴  
(双葉社)

ホラー作家兼 YouTuber である雨穴氏による11万字の書き下ろし長編小説。見れば見るほど、何かがおかしい、不穏なプロット、消えた男児、惨殺死体、補導少女。「奇妙な絵」に秘められた衝撃の真実とはなにか。9枚の「図絵」がからみあうミステリー。



『量子は不確定性原理のゆりかごで宇宙の夢を見る』  
佐治 晴夫  
(トランスビュー)

専門的な物理学を学んだことのない読者を対象に、最前線の宇宙研究には欠かせない量子論(量子物理学あるいは量子力学)の世界観を、概観。むずかしいはずの物理学の言葉と、心にしみる詩の言葉が交じり、遠い宇宙のあなたの話と、この瞬間の目の前の風景が重なり、一つになる。

『高校数学でわかるマクスウェル方程式』  
竹内 淳  
(講談社ブルーバックス)

電気発見の歴史をたどりながら、電流、電圧、電界、磁界、磁束密度、静電容量について解き明かし、マクスウェルの方程式が理解できる。電磁気学を学びたい人、学びはじめた人、しっかり原理を知りたい人の入門書。



## 学習支援図書の中から



『もういちど読みとおす山川新日本史 上・下』  
大津 透 他  
(山川出版社)

誰にでも読みやすく、2冊で日本史の全体像を把握できる。高等学校の教科書『新日本史(改訂版)』をベースに、一般の読者を対象として、時代像をとらえやすく記述。時代の理解の助けとなるようなコラムも挿入。上、旧石器～18世紀。下、18世紀～21世紀。

『見るだけで理解が加速する得点アップ 数学公式図鑑』  
あきとんとん  
(KADOKAWA)

数学の定理・公式を図解で分かりやすく1冊にまとめてある。円の面積がなぜ $\pi r^2$ になるのかという基本公式から微分積分まで、SNS 総フォロワー数40万人の数学系 YouTuber あきとんとんが、数学の定理や公式について分かりやすく説明。

## 《話題の図書の中から》



『日本人が知らない世界の祝祭日事典』  
斗鬼 正一  
(淡交社)

世界各地の特徴的な祝祭日を取り上げ、その背景、歴史や風俗、文化などを紹介。著者の研究領域である文化人類学の視点に立った比較文化論を盛り込んだ一冊。「世界の祝祭日を知ること、各国の歴史・風俗・文化などが見えてくる。」「世界にはその土地に根差した独自の祝祭日がある。」と著者は言う。

『幽落町おばけ駄菓子屋』  
蒼月 海里  
(KADOKAWA)

大学に入り独り暮らしを始めることになり紹介された物件は、東京都狭間区幽落町の古いアパートだった。地図に載らないそこは、妖怪や幽霊がさまよう不思議な町。普通の人間がのんびり住んでいていい場所ではないのだが、大家さんでもある駄菓子屋「水無月堂」の店主に頼まれ、死者の悩みを解決すべく立ち上がってしまった謎と謎の物語。

ビプリオバトル2022 エントリー本



『生きてりゃ踊るだろ』  
辻本 知彦  
(文藝春秋)

シルク・ドゥ・ソレイユの舞台から、大ブームとなったパプリカダンス誕生秘話まで「聖なる獣」と称されるダンサー・振付家が半生と共に明かす仕事術。クリエイティブな力を引き出す仕事術から、子どもの情操教育までダンスを通して新しい可能性を求め一冊。



『東京地理入門 -東京をあるく、みる、楽しむ』  
菊地 俊夫、松山 洋【編】  
(朝倉書店)

大きな視点と「クローズアップ」で、東京の地理の全体像を描き、東京の地形・気候・動植物・水と海・歴史と文化・住まい・経済・観光など、そして東京の未来について語る一冊。

TOKYO



『世界が面白くなる身の回りの数学』  
佐々木 淳  
(あさ出版)

身の回りの物や事象に数学がどのように取り入れられているのかを解説し、数学の奥深さや楽しさを紹介。数学の「厳密さ」を棚上げにして、ざっくりとしたイメージや具体例を用いて文系の人にもわかりやすく解説している。



『宇宙マグロのすしを食べる -魔法の水-』  
適環境水 誕生物語』  
山本 俊政  
(旬報社)

海水魚と淡水魚がいっしょに泳いで、世界を驚かせた第3の水「好適環境水」。食料危機を解決し、めざすは宇宙養殖までを解説。